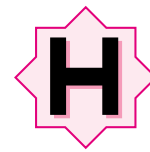




Vol.8

2012年2月発行

平鹿総合病院の理念



- 「より高度な臨床」
- 「より深い研究」
- 「より広い教育」
- 「より積極的な保健活動」

の四つの柱を職員が共有し、
地域の人々の生命と健康を守ります。



11月19日病院祭において餅つきが行われました。

CONTENTS

- 院長あいさつ
秋田県でドクターヘリの運用が始まります ……②
- 職場紹介 ……③
診療放射線科
- 新任医師・事務長のご紹介 ……③
- 外来受付時間のご案内 ……④
- マイコプラズマ肺炎について ……④

当院は、日本医療機能評価機構 Ver5.0の認定施設です。また、当院の健診センターは、日本人間ドック学会の機能評価認定施設です。



病院住所 / 〒013-8610 横手市前郷字八ツ口3番1
TEL / 0182-32-5121 (代) FAX / 0182-33-3200
● HP : <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

秋田県でドクターヘリの運用が始まります



院長 平山 克

報道などを通してすでにご存じの皆さんも多いと思いますが、秋田県においても医療現場にドクターヘリを導入する事が正式に決定されました。現在、運用開始に向けた準備が行われておりますので、今回はドクターヘリについての基本的な事柄を紹介したいと思います。

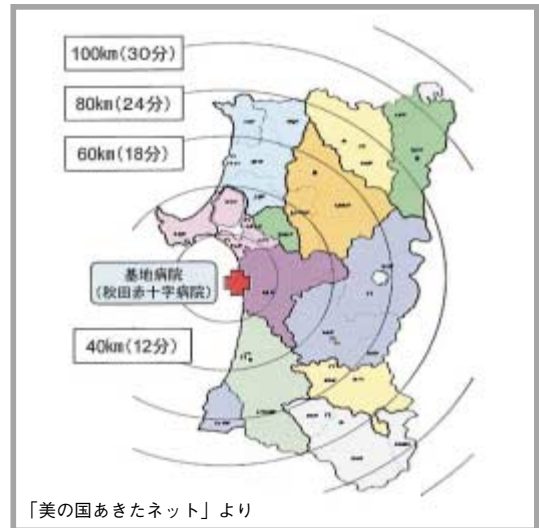
ドクターヘリとは（「コードブルー」などのドラマで活躍の様子を御覧になった方も少なくないと思います）、救急医療に必要な医療機器や医薬品を備えて救命救急センターに常駐して、要請があるとすぐに医師や看護師を乗せて救急現場やその近くまで出動する救急医療専用のヘリコプターのことです。搬送時間の短縮（秋田県地図を御覧下さい）だけでなく、医師がいち早く患者さんに接触出来て、搬送中も医師による観察・処置が可能であることが特徴です。このことから、救命率の向上や後遺症の軽減に大きな効果が期待されます。

秋田県の場合は、秋田赤十字病院が基地病院となります。ドクターヘリの出動を要請出来るのは県内の消防機関に限られますので一般の方が直接要請することは出来ません。待機時間は原則午前8時30分から午後5時30分（又は日没の30分前のいずれか早い方）で、毎日運航しますが、悪天候や視界不良時は運航出来ません。

尚、気になる費用の面ですが、運航にかかる費用は国と秋田県が負担しますが、ドクターヘリに搭乗した医師が行った診療行為については、医療保険制度に基づいた費用が発生して患者さんの負担になります。

秋田県ドクターヘリは平成24年1月23日（月）より運用開始します。平成23年11月29日に、平鹿総合病院のヘリポートを現場とするドクターヘリ離着陸訓練が行われました（写真はこの訓練の様子です）。私ども病院職員も横手消防本部と連携して、スムーズなドクターヘリ運用を目指しています。新たな手段を得ることになりますので、地域の皆さんの生命と健康の維持にさらに貢献しなければと決意を新たにしています。

（注）時速200kmで計算した場合の運航時間



ドクターヘリ搬送訓練（当院ヘリポート）



秋田県ドクターヘリ発着訓練（当院ヘリポート）

■ 職場紹介

診療放射線科

技師長 大坂 庄一郎

平鹿総合病院は、県南地区の中核病院として診療業務を行っております。放射線部としては、放射線画像診断・放射線治療及び放射線治療計画を業務としております。

特徴として、全身のX線撮影装置からX線TV装置3台、CT装置2台、1.5テラスMRI装置2台、心臓血管撮影装置、全身血管撮影装置、高エネルギー放射線治療装置、核医学診断装置、院内出張用X線撮影装置3台、手術室用透視装置1台を保有しております。これらの診断装置は、平成23年10月より電子カルテに伴うデジタル化により全て結ばれ、検査終了後直ちに各診療科で画像診断、参照が可能となり患者さんの待ち時間短縮によるサービス向上や地域連携に貢献しております。

平成23年12月には、全身用血管撮影装置が新規更新となりました。同時に二方向から撮影可能であり、複雑に走行する血管を3D処理表示することも出来ます。また、CT撮影も出来る高性能な機種です。さらには、開頭、開胸、あるいは開腹すること無く治療を行うカテーテル治療に於いては、患者さんにとって安全かつ迅速に治療を遂行するための画像情報診断に、大きく貢献できると確信しております。

また、当院は県南地区のがん拠点病院として放射線治療を行っております。

コンピュータを備えた精密治療計画装置により線量計

算を行い、病巣にピンポイントで照射を行うように、装置の保守管理、線量測定等の技術支援を行っており高い治療成績を上げております。

保健活動業務に於いては、人間ドック、職域検診、地域検診における肺がん、胃がん、乳がん検診を健診センターと検診車で一年中行き、地域住民の皆様方の病気の早期発見に寄与する為、積極的に活動しております。

放射線部のテーマとして、コミュニケーション能力を高めつつ卓越した技術、知識を持った集団を作ることが目標としています。各種勉強会、ガイドライン講習会、学術大会への参加、マンモグラフィ認定技師、胃がん検診専門技師、放射線治療認定技師、第一種放射線取扱主任技師など認定資格取得を積極的に行い、高い志を持った集団となるよう日々、切磋琢磨し合っております。

放射線部スタッフは、全体で24名です。診療放射線技師18名（女性技師1名）、看護師3名、事務職3名で構成しています。救急診療業務に対しては、夜間・休日に於いて当直業務者を配置し、さらにバックアップの待機者をスタンバイさせ365日24時間、平鹿総合病院の機能と共に活動しております。

最後に、地域の皆様に信頼され愛される平鹿総合病院であり続ける為、私達放射線部も診療体制の一部門としての責務を果たすことを念頭に置き日々頑張っていきたいと思っております。



放射線治療装置



血管撮影装置（平成23年12月整備）

新任医師・事務長のご紹介



産婦人科科長
滝澤 淳
(11月1日付)



外科医長
加藤 拓見
(10月1日付)



事務長
佐藤 徹
(10月1日付)

診察受付時間のご案内 (土曜日は休診です。)

[平成24年2月1日現在]

ブロック	診療科	受付曜日	受付時間	備 考
1階 Aブロック	消化器・糖尿病内科 (旧 第一内科)	月～金	午前11時まで	◎肝臓外来(毎週火曜日) ◎炎症性腸疾患外来(水・金曜日) ◎糖尿病外来(火・木曜日)
	外 科	月～金	午前11時まで	◎小児外科(毎週木曜日午前) ◎ストーマ外来(毎週火・木曜日14:00～16:00) ※完全予約制 ※緊急の場合を除き初回受診時は検査のみを行い、医師の診察は完全予約制です。(毎週月・火・金曜日)
	乳 腺 科	月～金	午前11時まで <small>※医師不在の場合もあり、確認してからご来院ください。</small>	
	整 形 外 科	月～水・金	午前11時まで	
		木	午前10時まで	
心療センター	火・水・金	午前11時まで	※新患の方はあらかじめ水曜日又は金曜日に予約をお願いします。 (お電話でも結構です。)	
1階 Bブロック	呼吸器内科 (旧 第二内科)	月～金	午前11時まで	◎禁煙外来(第2・第4木曜日16:00～17:00) 正面受付で予約 ◎CPAP外来(毎週木曜日13:00～14:30) ※完全予約制 ◎在宅酸素外来(毎週火曜日13:30～14:30) ◎ペースメーカークリニック外来(毎週水曜日14:00～15:00) ※要予約 ◎神経内科(毎週水曜日13:00～15:00)
	循環器内科 (旧 第二内科)	月～金	午前11時まで	
	血液内科 (旧 第二内科)	月～金	午前11時まで	
	脳神経外科	月・火・水	午前11時まで	
		木・金	午前10時まで	
心臓血管外科	木・金	午前11時まで		
2階 Cブロック	皮 膚 科	月・水	午前9時まで	◎神経外来(第4水曜日) ※完全予約制
	小 児 科	月～金	午前11時まで	◎内分泌外来(第2・第4金曜日) ※完全予約制 ◎腎臓外来(第1金曜日) ※完全予約制 ◎血液外来(第4金曜日) ※完全予約制 ※特殊外来受診希望の場合は必ず小児科外来にご連絡ください。
		◎予防接種・慢性疾患(毎週火曜日13:00～15:00) ◎乳児検診(毎週木曜日13:00～15:00) ◎心臓外来(第1・第3・第5金曜日) ※完全予約制		
		産 婦 人 科	月～金	午前11時まで
形 成 外 科	月～木	午後3時まで(診療は午後1時30分から)	◎顎顔面・唇顎口蓋裂外来(第1金曜日)	
	金	午前10時まで(午前に診療します)	※金曜日のみ午前診療です。	
2階 Dブロック	耳 鼻 咽 喉 科	月・水・木	午前11時まで	◎午後学童外来(毎週木曜日、受付は午後3時まで) 診療は午後3時からです。
		火	休診(手術日)	
		金	午後0時～午後3時	※金曜日の診療は午後1時30分からです。
	眼 科	月	午前は9時30分まで・午後は0時～2時30分	※月曜日の午後の診療は2時からです。
		火・水	予約のみ	◎手術日(毎週水曜日)
		木・金	午前9時30分まで	
泌 尿 器 科	月～金	午前11時まで	◎ストーマ外来(毎週火・木曜日10:00～11:30) ※完全予約制	
歯 科	月～金	午前11時まで		

※自動再来受付機は午前6時30分から受付開始します。 ※新患受付は午前8時から受付開始します。

マイコプラズマ肺炎について

マイコプラズマ肺炎は、「肺炎マイコプラズマ」という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。小児や若い人の肺炎の原因としては、比較的多いものの1つです。例年、患者として報告されるもののうち約80%は14歳以下ですが、成人の報告もみられます。例年は、マイコプラズマ肺炎は1年を通じてみられ、冬にやや増加する傾向にあります。過去には、昭和59(1984)、昭和63(1988)年に比較的大きな流行があったほか、平成12(2000)年以降は徐々に患者数が増加傾向にあります。平成23年(2011)年は夏頃から患者数の増加が報告されていますが、増加した理由はよくわかっていません。

発熱や全身倦怠感(だるさ)、頭痛、痰を伴わない咳などの症状がみられます。咳は少し遅れて始まることもあります。咳は熱が下がった後も長期にわたって(3～4週間)続くのが特徴です。多くの人はマイコプラズマに感染しても気管支炎で済み、軽い症状が続きますが、一部の人は肺炎となり、重症化することもあります。一般に、小児の方が軽くすむとされています。

感染経路はかぜやインフルエンザと同じですので、普段から、手洗いをするのが大切です。また、患者の咳から感染しますので、咳の症状がある場合には、マスクを着用するなど咳エチケットを守ってください。

編集後記

平成23年は平穏にみのりの秋を迎えられました。稲作は春の低温による田植えの遅れにも関わらず平年並の作柄で、心配された放射能の影響も皆無で一安心。しかしながら、ブドウやリンゴなどの果樹は、豪雪による枝折れのため相当な減収になったと報道されています。回復まで長期間かかる見通しとのことで、果樹農家の方々のご健闘を職員一同衷心よりお祈り申し上げます。

(広報委員 木村)